



森林環境教育ネットワークメールマガジン 第200号 (平成 30 年 11 月 16 日)



( 目 次 )

- 1 <林野庁プレスリリースから> 国連生物多様性の10年「グリーンウェイブ 2018」の実施結果について
- 2 <コラム> 森林環境教育の現場から(141)
- 3 <森林・林業白書から>住民自ら伐採等の施業を行い地域の山を守る活動の実施
- 4 <樹をとりまくはなし>(21) 昭和力に響くのは昭和人
- 5 <イベント情報>
  - ◆保育者のための環境教育セミナー ～初冬の森で感じて考える～
  - ☆ 事務局から



森林環境教育ネットワーク <http://www.shinrinreku.jp/feenet/index.html>  
 《バックナンバー<http://www.shinrinreku.jp/feenet/php4/mlbk/index.php>》  
 《イベント情報の登録・閲覧 <http://www.shinrinreku.jp/feenet/einfo/>》  
 一般社団法人全国森林レクリエーション協会 <http://www.shinrinreku.jp>




---

1 <林野庁プレスリリースから> 国連生物多様性の 10 年「グリーンウェイブ 2018」の実施結果について

---

農林水産省、国土交通省、環境省及び国連生物多様性の 10 年日本委員会 (UNDB-J)は、平成 30 年 3 月 1 日より 6 月 15 日までの期間、「グリーンウェイブ 2018」への参加と協力を広く国内に呼び掛けました。

その結果、延べ 419 団体の参加、延べ 143 団体の協力のもと、約 26,900 人の参加を得て、約 22,200 本の植樹が行われるなど、様々なグリーンウェイブ活動が行われました。

1 「グリーンウェイブ 2018」の実施結果について

この度「グリーンウェイブ 2018」に御参加いただいた団体数等についてとりまとめたところ、以下の結果となりました。

本年は、新たな取組として「オフィシャル・パートナー制度」を創設したところ、パートナーを中心に活動が促進され、昨年比で参加人数が 2.8 倍、参加団体数が 1.7 倍となるなど、植樹等のイベントをきっかけとした生物多様性の広報、教育、普及啓発が促進されました。

来年も引き続き、オフィシャル・パートナー制度を活用した活動を促進します。

(1)参加団体(グリーンウェイブ活動を計画及び実施した、または植樹等の行事に参加した団体)

延べ 419 団体

協力団体(苗木・場所の提供や技術指導等を実施した団体)

延べ 143 団体

(2)植樹等の活動に参加した人数

約 26,900 人

(3)植樹した本数

約 22,200 本

## 2 参考

(1)グリーンウェイブ

世界各地において国連が定める「国際生物多様性の日」(5月22日)の午前10時に植樹等を行うことにより、地球上の東から西へ波のように広がっていく様子を「緑の波(グリーンウェイブ)」と表現しています。

農林水産省、国土交通省、環境省及び国連生物多様性の10年日本委員会(UNDB-J)では、生物多様性に関する理解が社会に浸透するように、植樹等をきっかけとした生物多様性の広報、教育、普及啓発を推進するため、生物多様性条約事務局は、国連が定める「国際生物多様性の日」(5月22日)に、世界各地の学校や地域等で植樹等を行うことを「グリーンウェイブ」活動として呼びかけています。

(2)「国連生物多様性の10年日本委員会」(UNDB-J)

2011年から2020年までの10年間は、国連の定めた「国連生物多様性の10年」です。生物多様性条約第10回締約国会議(COP10)(2010.10愛知県名古屋市)で採択された、新たな世界目標である「愛知目標」の達成に貢献するため、国際社会のあらゆるセクターが連携して生物多様性の問題に取り組むこととされています。

これを受け、愛知目標の達成を目指し、国内のあらゆるセクターの参画と連携を促進し、生物多様性の保全と持続可能な利用に関する取組を推進するため、「国連生物多様性の10年日本委員会」(UNDB-J)が2011年9月に設立されました。

(UNDB-J ホームページ)<http://undb.jp/>(外部リンク)

(3)「グリーンウェイブ」オフィシャル・パートナー制度について

本年の新たな取組促進策として、グリーンウェイブの活性化に特に貢献する企業・団体等を『「グリーンウェイブ」オフィシャル・パートナー』に任命しました。本年は9団体をオフィシャル・パートナーに任命し、活動の呼びかけや取りまとめを強化しました。詳細は以下のグリーンウェイブウェブサイトをご覧ください。

(グリーンウェイブホームページ)<https://greenwave.undb.jp/index.html>(外部リンク)

(4)オフィシャル・パートナーによる活動の広がりについて

今年は9団体をオフィシャル・パートナーとして任命しましたが、パートナーのとりまとめによる取組実績は、以下のとおりでした。

<オフィシャル・パートナーが取りまとめた活動>(分母は今年の全体数)

参加団体数:299団体/419団体(約7割) 参加人数:1.7万人/2.7万人(約6割)

植樹本数:1.2万本/2.2万本(約5割)

(5)森林づくり推進国民運動「フォレスト・サポーターズ」

日本の森林が、「植えて、育てて、収穫して、上手に使って、また植える」という「森づ

くりの循環」を取り戻し、地球温暖化防止や生物多様性保全を促進していくために始められた「美しい森林づくり推進国民運動」を、全国の企業・NPO や国民一般の参加を得て拡げていくために、創設されました。

「森にふれよう」、「木をつかおう」、「森をささえよう」、「森と暮らそう」という「森のための4つのアクション」を呼びかけ、それぞれのアクションを実施する際に参考となる活動例やサポート団体等を紹介するとともに、具体的な実践ができるイベント等を紹介しています。

(フォレスト・サポーターズホームページ)<http://www.mori-zukuri.jp/>(外部リンク)

### 3 その他

平成 30 年 2 月 27 日付けプレスリリース

国連生物多様性の 10 年「グリーンウェイブ 2018」の実施について

[http://www.rinya.maff.go.jp/j/press/sin\\_riyou/180227.html](http://www.rinya.maff.go.jp/j/press/sin_riyou/180227.html)

平成 30 年 5 月 22 日付けプレスリリース

国連生物多様性の 10 年「グリーンウェイブ 2018」の取組の中間報告について

[http://www.rinya.maff.go.jp/j/press/sin\\_riyou/180522.html](http://www.rinya.maff.go.jp/j/press/sin_riyou/180522.html)

---

## 2 <コラム> 森林環境教育の現場から(141)

---

北海道名寄市の郊外の小学校で活動してきました。気温3℃小雨交じりということで、校内活動にしました。「学校にある木はどんな役目があるのだろうか？」この間に「生き物がやってくる！すめる～！」「木陰をつくる！」「絵が描ける！」「木登りができる♪」など、どんどん回答されていきます。高学年から「酸素をつくる」「二酸化炭素を吸い込む」など、光合成の勉強で習った回答がされてきました。「すごいね！良く知っているね！では、校庭で一番大きな木はどれ？」「ん・・・」「ハルニレだ～」すかさず答えます。「そうだね！じゃ、あのハルニレは何歳？高さは？・・・」「知らないよ～」「そうだよ。記録がないと分からないよね！では、これから幹周りと高さを調べませんか？平成 30 年にどのくらいの大きさを記録しておく、ず～と先に役に立ちますよ！」ということで、子どもたちと計測しました。幹周り 2.42m、高さ(三角定規とメジャーを使って)21.5m、ついでに材積 3.98 立米、貯蓄二酸化炭素量 7,020.72kg この数値を記録すること、皆で協力して計測したことが心に残る記録になればいいなと思いました。

(森林インストラクター 柳原 高文)

---

## 3 <森林・林業白書から> 住民自ら伐採等の施業を行い地域の山を守る活動の実施

---

島根県津和野町の高田地区では、里山林の管理が行き届かなくなり、イノシシやサルによる農作物等の被害が深刻化していた。このような中、地区の自治会が主体となって立ち上げた「高田里山を守る会」は、平成 26(2014)年度から林野庁の「森林・山村多面的機能発揮対策交付金」を活用しながら、里山林の整備に取り組んでいる。里山林に侵入してきた竹の伐採や間伐等の森林整備を実施することで、里山林の景観が

改善されるとともに、獣害も軽減されている。また、森林の混み具合の調査を行った上で間伐を実施し、作業道の整備も行っており、間伐材を搬出し、町内で実施されている「木の駅プロジェクト」の取組に参加するなどにより主に燃料用として販売することで、活動資金の一部の確保につながっている。同会の活動は、様々な世代が参加することで地域のつながりを強めるとともに、高齢者にとっての生きがいともなっており、同会は、チェーンソーの講習会の受講や活動開始前の注意事項の共有等により安全確保を図りながら、継続的に活動を実施していくこととしている。

(平成29年度森林・林業白書 事例から)

---

#### 4 <樹をとりまくはなし>(21) 昭和力に響くのは昭和人

---

小学校で出前授業をやるときに、やんちゃな子が悪ふざけすることがあります。よくあるのはミミズが出てきたら、なぜか大騒ぎになり、だいたい「おしっこかけろ」となるのです。この流れは、意外と今も昔も変わらないのかもしれませんが。そんな時、昭和力を発揮して、「ミミズにおしっこかけると、ちんちんが腫れるよ！」と脅かさなければいけません。一瞬ですが、抑止力になります。例のごとく「ちんちんが腫れるから、やめときな！」と言ったあと、先生(女・同世代)が、「私、ミミズにおしっこかけたことがあって、本当に腫れたんですよ。ミミズって何かそういう物質を出しているんですか？」と真顔で聞かれました。「えー迷信だと思って言っていました、まさか経験者がいるとは！」と驚くばかり。昭和力に愧じたのは、やっぱり昭和の人でした。ミミズに詳しい方いらっしゃったら、教えていただけると幸いです。

(森林インストラクター 岩谷 美苗)

---

#### 5 <イベント情報>

- ◆保育者のための環境教育セミナー <入門～中級編>  
～初冬の森で感じて考える～

- 
- ◆保育者のための環境教育セミナー <入門～中級編>  
～初冬の森で感じて考える～

<http://www.keep.or.jp/taiken/leader/eeseminar.php>

◇日 程:2018年12月8日(土)13:00～9日(日)15:00 <1泊2日>

◇場 所:清泉寮自然学校

(公益財団法人キープ協会／山梨県北杜市高根町清里)

◇講 師:増田 直広(公益財団法人キープ協会環境教育事業部主席研究員)

小西 貴士(森の案内人、写真家(日本写真家協会会員))

○ここがオススメ!

- ・環境教育の視点と保育の視点をしっかり結ぶためのダブル講師!
- ・「環境教育」を森で感じて考える、保育現場を見て考える
- ・初冬の森で、キープ協会の環境教育プログラムを体験できる!

- ・みんなで囲む美味しい食事と薪ストーブ
- ・冬の夜長、講師や参加者と大いに情報交換ができる！

#### ○講師紹介

<増田 直広(ますだ なおひろ)>

公益財団法人キープ協会 環境教育事業部 主席研究員／  
都留文科大学非常勤講師／日本大学非常勤講師／  
立教大学 ESD 研究所客員研究員

園児対象の環境教育プログラムの企画・運営・評価、保育者研修、幼児環境教育プログラム集作りなどを担当。

一般社団法人日本環境教育学会にて、プロジェクト研究「幼児期における環境教育」の事務局を担当。

「幼児期における環境教育のためのチェックリスト」作りに関わる。

環境教育を通して「持続可能な社会＝誰にとっても平和な社会」の実現に向けて、「普段着インタープリター」(＝インタープリターのセンスを持って日々を生きる人)を増やすべく、清里をはじめ全国各地で活動中。

『ファシリテーター・トレーニング』(ナカニシヤ出版、2003年)共著  
『インタープリター・トレーニング』(ナカニシヤ出版、2014年)編著

<小西 貴士(こにし たかし)>

森の案内人／写真家(日本写真家協会会員)／  
大妻女子大学非常勤講師／清里聖ヨハネ保育園非常勤スタッフ

森の案内人(インタープリター)であり、写真家。

様々なアプローチで生命とつながりを見つめることを得意とする。

2000年のキープ自然学校立ち上げより、15年間レンジャーとして勤務の後フリーランス。現在は八ヶ岳南麓にて汐見稔幸氏らと共に「ぐうたら村」という、保育者のための自然と文化の学校を主催。

森や野原で子どもたちと過ごしながらか、子供を含む「命を巡るうまく言葉にならないこと」をテーマに写真を撮り続ける。

写真や言葉を雑誌などで発表するかたわら、広く保育や子育てを応援するため、全国各地でスライドショーや写真展を開催。

『子どもと森へ出かけてみれば』(フレーベル館出版、2010年)  
『みてみて!』(福音館書店、2013年)  
『また おこられてん』(童心社、2016年)など著書多数。

#### ○スケジュール予定

1日目

※13時開始予定

- ・森の保育園を訪れて考えよう「環境教育ってなんだろう？」
- ・ゴリのスライドショー × ますやんのレクチャー

・薪ストーブを囲みながら語り合おう

2日目

・選択プログラム(下記から興味別に選択)

①冬の森で、環境教育プログラムを体験してみよう!

②森や野から保育を考えてみる、冬のガイドウォーク

・みんなで考えよう「保育と環境教育のつながり」

※15時終了予定

#### ○開催要項

・主催/公益財団法人キープ協会

(環境教育事業部、清泉寮自然学校、清里聖ヨハネ保育園)

・日時/2018年12月8日(土)13:00~9日(日)15:00 <泊2日>

・場所/清泉寮自然学校(公益財団法人キープ協会/山梨県北杜市高根町清里)

★男女別相部屋

・対象/16歳以上一般

(保育や環境教育に興味・関心のある方ならどなたでも)

・定員/30名(先着順)

・料金/20,000円(税込、宿泊食費込)

#### ○お申し込み方法

下記URLのHP下部にお申込フォームがございます。

必要事項をご入力ください。

<http://www.keep.or.jp/taiken/leader/eeseminar.php>

★お申込み後1週間以内に、お申し込みをお受けしたことをお知らせいたします。

★プログラム開催の2週間前頃に、詳しいご案内資料(事前資料)をお送りいたします。

#### ○キャンセル規定

事前資料がお手元に届いてからキャンセルされる場合は、下記のキャンセル料をいただきます。

やむを得ない事情で、キャンセルされる場合には、必ずご連絡ください。

・資料が届いた日~11/30:事務手数料として1,000円

・開催1週間前(12/1)~2日前(12/6):参加費の25%

・開催前日(12/7):参加費の50%

・当日(12/8)、及び無連絡の不参加:参加費の100%

#### ○お申込み・お問合せ先

公益財団法人キープ協会 環境教育事業部

キープ・フォレスターズ・スクール

〒407-0301 山梨県北杜市高根町清里 3545

Tel:0551-48-3795 Fax:0551-48-3228

E-mail:forester@keep.or.jp

担当:小野 明子(おの あきこ)

※本ネットワークの「イベント情報」(<http://www.shinrinreku.jp/feenet/einfo/>)にご登録

